

令和 6 年度 第 2 回 全国健康保険協会千葉支部評議会概要報告（速報）

開 催 日	令和 6 年 10 月 21 日（月） 14：00 ～ 16：00
開催場所	日本生命千葉駅前ビル 4 階 千葉支部会議室
出 席 者	小賀野評議員、椎名評議員、新谷評議員、中曽根評議員、中野評議員、宮本評議員、山口評議員（五十音順）
議 題	1. 令和 7 年度保険料率について【審議事項】 2. 協会けんぽ千葉支部の現状評価・健康課題等について【意見聴取】 3. その他報告について【報告事項】
議事概要（主な意見等）	
事務局より、各議題について説明を行った。 各評議員からのご意見等は以下の通りである。 1. 令和 7 年度保険料率について【審議事項】 【被保険者代表】 準備金について、現在 5 兆円も積みあがっている状況を鑑みると、準備金の適正な水準や使用用途を明確に設定すべきではないか。法令では必要な積立金額を 1 ケ月分以上と下限が定められているが上限についての規定がないため、何か月分までと上限額を定め、その上で、準備金を不測の事態に備える積立金と、保健事業等に活用するための積立金と分けて運用すべきと考える。 【事務局】 法定準備金について、ある程度の水準や上限を設けることは運営委員会でも議論されているところであるが、お示ししたシミュレーションにもあるとおり、10 年先までに準備金が枯渇するという見通しもある現状ではなかなか難しいところである。 【被保険者代表】 近年の賃上げの状況等を踏まえると、協会けんぽと健康保険組合では標準報酬月額格差が更に拡大していく傾向にあると思う。協会けんぽは標準報酬月額が低い中で、保健事業等の取組を頑張っているが、財政が好転するまでにはなかなか至っていないので、国庫補助率が 16.4%では十分ではないということも今後議論していくべきではないか。 【事務局】 協会けんぽの標準報酬月額も上昇しているが、加入事業所の約 8 割が 9 人未満の小規模事業所であり、平均標準報酬月額の伸び率は連合や経済団体が公表しているような賃上げ率までは至っていない。 なお、国庫補助率については平成 27 年度から 16.4%とすることを期限の定めがなく恒久化したと同時に、新たに積みあがった準備金の分の 16.4%を減額するという特例措置が講じられている	

ところ。協会けんぽとしては、国庫補助の減額特例措置の廃止と補助率の 20%への引き上げについて、毎年度、国に対して要望しているが、実現に向けて引き続き要望を強めてまいりたい。

【事業主代表】

商工会連合会の会員事業所は県内に約 2 万社あるが、大多数が小規模の事業所であり、やはり世間一般に言われているような賃金上昇率までは満たしていないのが現状である。ちなみに、協会けんぽ本部の運営委員会では資料にあるシミュレーションを見た上でどのような意見が出ているのか。

【事務局】

運営委員会の方でも、準備金の適正な水準を設定すべきというご意見のほか、平均保険料率を暫定的に引き下げすべきではないかといったご意見等をいただいている。

【被保険者代表】

賃金上昇しているにも関わらず、多くの健康保険組合で運営が厳しくなっており、解散後に協会けんぽに移行してくる可能性も大きいと考える。

【事務局】

財政が厳しい健康保険組合については合併して運営しているところもある。逆に財政状況が好調な企業を中心に協会けんぽから脱退して新しく設立する健康保険組合もある。

【学識経験者】

健康保険組合の運営が厳しくなっている原因等で明らかになっていることはあるのか。

【事務局】

協会けんぽも共通の問題であるが、団塊の世代が後期高齢者になることに伴う後期高齢者支援金の急増が大きく影響している。

【被保険者代表】

後期高齢者支援金の増加については社会的課題であり、国がもっと重要な課題として考えなければならぬと思う。協会けんぽ等の保険者のみで頑張っても厳しいのではないか。

【事務局】

後期高齢者の医療費について、令和 4 年 10 月から一定以上の所得がある方については窓口負担を 1 割負担から 2 割負担に引き上げられたところであるが、まだまだ十分な対応とは言えない。国の審議会でも 3 割負担対象者の拡大について議論の俎上に上がってきている。協会けんぽとしても現役世代の負担上昇の抑制のため、引き続き国に対して意見発信していきたい。

【学識経験者】

このような現状を見ると、平均保険率を 10%から引き下げるのはやはり難しいと思う。そこで、できるだけ 10%で維持していくという議論に併せて、いつから 10%より引き上げていくかということについても議論が必要になってきているのではないかな。

【事務局】

準備金残高が積みあがった際に、保険料率を引き下げた過去があるが、同時に国庫補助率も引き下げられ、その後 10 年で準備金が枯渇してしまったという歴史がある。そのような歴史・背景も踏まえ、協会けんぽとしてはできるだけ長く、平均保険率 10%を維持していきたいという考えである。また、加入者へ準備金を還元するという観点からも、準備金を活用した保健事業の更なる充実に努めて参りたい。

【被保険者代表】

保健事業の一層の推進として人間ドックの補助等を新たに行うということについては、被保険者や事業主の皆様からいただいている保険料のおかげであり、一人ひとりが一生懸命努力した結果で実現できたと思う。いい制度になっていくことを期待する。

【事務局】

よい制度を作っても利用してもらわないと意味がないので、なるべく多くの加入者が健診を受診していただけるよう周知広報の方も努力していきたい。

(総括)

- ・ 平均保険料率 10%維持でよいとの意見で一致。
- ・ 保険料率変更時期について、令和 7 年 4 月納付分(3 月分)からで特に異論はなし。

2. 協会けんぽ千葉支部の現状評価・健康課題等について【意見聴取】

【被保険者代表】

健診結果・問診結果について、千葉支部加入者の数値が全国平均と比較して健康リスクが高いのか。それとも全国的に見られる傾向なのか。

【事務局】

全国平均と比較して千葉支部加入者の健康リスクが高いことが結果として出ている。特に「噛みにくい、ほとんど噛めない者」の割合が高い。

【被保険者代表】

千葉県近郊、首都圏と比較した場合はどうか。

【事務局】

関東近辺の中で見てもメタボリックシンドロームのリスク保有率がかなり高く、咀嚼能力が低い者が多いほか、喫煙率についても高いことが分かっている。

なお、一人当たり医療費については、現時点では全国と比較して低いが健診結果から健康リスクが高い者が多いことが分かっているため、将来的に医療費の増加に直結してくることが予想される。

【被保険者代表】

健康状態の悪さを自覚しているが、医療機関や歯科医院に受診していないということか。

【事務局】

そのような方もいるので、医療機関への受診勧奨もしっかり行わないといけないところである。

【被保険者代表】

業態別でみて健康リスクが高い運輸業や建設業、介護事業所については、人手不足も原因として影響しているのではないかな。

【事務局】

介護事業を行っている事業所を伺って話を聞いたが、入社してもすぐ退職する人も多く、管理者の方としては、健康づくりを推進したいけれどなかなか取り組みが進まないと仰っていた。

【被保険者代表】

健診や医療機関への受診勧奨にあたって、地方新聞社と協力して、スマートフォン向けのニュースアプリに記事を載せるなどしたらどうか。また、分析で得られたデータを定期的にプレスリリースすることもよいのではないかな。

3. その他報告について【報告事項】

【被保険者代表】

マイナ保険証に関して、誤解を与えかねない情報を掲載したウェブサイトが多く出回っているので注意すべき。

特記事項

・次回は令和7年1月に開催予定。